

《木材利用システム研究会》

研究発表会

研究発表の申し込みに関するお知らせ

木材利用システム研究会は、木材の適正な利用拡大を目的として、木材産業界、学術界、行政、消費者の相互理解と協調の場を提供するとともに、月例研究会を中心に、主に社会科学的な視点からディスカッションを行っています。

今年も、会員の皆さんの成果発表の場として、研究発表会を計画しました。木材の利用拡大に関し、企業等での実践報告から研究機関等での基礎研究まで幅広い発表を期待しています。また、優秀な発表に対する表彰を予定しています。会員各位の積極的な申込をお待ちいたします。

～ 記 ～

□日 時： 2019年9月12日（木）午後

※ タイムテーブルは、当研究会 Web およびメーリングリストでお知らせします。

□会 場： 弥生講堂一条ホール（東京大学農学部キャンパス）

□テ ー マ： 木材の加工・流通・利用に関する技術開発の方向性、管理部門、営業等の工夫など会員各位の実践報告、木材利用を取り巻く環境および経済性評価、マーケティング、制度・政策、教育など。

□発表時間： 発表1件につき、発表時間12分、質疑応答3分、計15分を予定しています。

□参加費： 会員：無料（平成30年度の会費をお支払い頂いた会員に限ります）

非会員：5,000円

※ なお、参加費を事前にお支払い戴き、お申し込み戴くことによって、平成30年度の会員登録が可能です。

※ 発表会終了後、情報交換会を予定していますが、この参加費は、別途5,000円を申し受けます。

□申込期限： **2019年6月28日（金）**

□申込方法： 下記をメールまたはFAXで**事務局**までお申込ください。

①発表のタイトル

②発表の概要（200字程度）

③発表者名（連名者を含む）とそれぞれの所属 ←登壇者を明示して下さい

④連絡先（メールアドレスと電話番号など）

□申 込 先： 木材利用システム研究会事務局（お問合わせはメールにてお願いいたします。）

Tel：03-5841-7506 Fax：03-5841-0915

Mail：info@woodforum.jp

HP：https://www.woodforum.jp

●○○●○○●○●○●申込された方は、以下に従い、要旨の提出をお願いします●○○●○○●○○●

□要旨提出： **発表者は執筆要領に従い、発表内容の要旨（A4紙1～4枚）を8月9日（金）までに編集委員会へ提出して戴きます。**

→要旨は、『木材利用システム研究 vol. 5』に掲載し、当日、配付いたします。

木材利用システム研究は、ISSN（国際標準逐次刊行物番号）を登録しますので、文献として引用して頂けます。

□要旨提出先：木材利用システム研究会 編集委員会

Mail：editor@woodforum.jp



(参考)

過去の発表テーマ一覧（2018年開催）

【総論・木材利用を取り巻く環境】

- ① 木材利用に関する知識と意識のアンケート調査結果と経年変化（上越教育大ほか）
- ② 木造持家一戸建の規模縮小と住宅部門の木材需要に関する一考察（農中総研）
- ③ 木材産業における ESG への対応と SDGs への貢献—研鑽会フェイズⅠの成果と課題—（東京大ほか）
- ④ 半径 30km 圏内で成立する木質バイオマス熱供給事業—木材利用には輸送コスト圧縮が必須—（アルファフォーラム）

【制度・政策】

- ① 製品の安定供給のために・・・BCP 策定で有事に備える（日本ノボパン）
- ② 「ウッドデザイン賞」を活かしたマーケティング戦略（国土緑化推進機構）

【企業・団体の木材利用拡大にかかる取り組み（技術開発の方向性等を含む）】

- ① 荒廃農地における国産早生樹林業の可能性—兵庫県宍粟市での事例の検証—（京都大ほか）
- ② 木材利用の津波減災設備市場への拡大（防波システム研）
- ③ 丸太を使った地盤改良の現状と新しい取り組み（飛島建設）
- ④ 木材産地証明書の取り組みについて（タマホーム）
- ⑤ 純木質耐火集成材「木ぐるみ FR®」の適用事例と課題—庁舎・ホール・保育園での施工実績から—（住友林業）

【教育】

なし

過去の発表テーマ一覧（2017年開催）

【総論・木材利用を取り巻く環境】

- ① 2016 年度の住宅着工と住宅ローンの動向—依然として堅調な貸家着工、金利先高観も影響—（農中総研）
- ② 木材加工と構造設計からみた木造化の課題と解決策—プレカット加工と CAD-CAM の今後—（アルファフォーラム）
- ③ 建築用木質製品利用の変遷における合板の位置づけ（森林総研）

【制度・政策】

- ① 「ウッドデザイン賞」を活かしたマーケティング戦略（国土緑化推進機構）

【企業・団体の木材利用拡大にかかる取り組み（技術開発の方向性等を含む）】

- ① 国産材活用の事例と取り組みについて（タマホーム）
- ② 木材コーディネーターがつなぐ暮らしと木材（森のマルシェ）
- ③ Weyerhaeuser 社の事業と北米マーケットの見通し（ウェアハウザー・ジャパン）
- ④ カナダの木材製品輸出マーケティング戦略（東京大）
- ⑤ 木材研究分野における「木の良さ」解明へのアプローチ（森林総研他）

【教育】

なし

以上